

- 1 親愛なるサンミー、写真をありがとう。
- 2 ここにあなたのためのいくつかがあります。
- 3 私はこれらの写真を先週家の近くの国立公園で撮りました。
- 4 私はそこに学校で私と一緒に勉強している少女と行きました。
- 5 最初の写真を見てください。
- 6 長い髪の少女が私の友人のミンです。
- 7 私たちは彼女の姉妹の車でその公園に行きました。
- 8 私たちは海岸に沿って走る道路に行きました。
- 9 景色はとても美しかったです。
- 10 私はすぐにもっと何枚かの写真を送ります。
- 11 敬具 ユミ
- 12 おばあちゃん、紅茶かコーヒーにしませんか。
- 13 私が英国から買ってきた紅茶を試しましょう。
- 14 アメリカのコーヒーは良いです、でも英国の紅茶はもっと良いです。
- 15 英国では私たちは紅茶を朝食、夕食や紅茶と一緒に紅茶を飲みます。
- 16 紅茶と一緒に紅茶？
- 17 英国の北部では「お茶」は時々「早めの夕方に食べる軽食」のことを意味します。
- 18 しかし、南部ではそうではありません。
- 19 飛行機で会った南部から来た女性はそれを知りませんでした。
- 20 そうなんですか。それは興味深い。
- 21 あなたがUSで今まで食べたもので最もおいしいものは何ですか。
- 22 私の好きなのは先週中華街で食べた特別ディナーでした。
- 23 そうね、ここの中華料理は良いです、でも中国の方がもっと良いです。
- 24 日本料理も中華料理と同じように良いです。
- 25 私は先週の土曜日にユミが昼食につくった全てが好きでした。
- 26 アメリカ料理は好きじゃないの、ミン。
- 27 いいえ、好きではありません。
- 28 あれはアメリカ料理よ、ミン。それはカリフォルニア寿司でした。

- 29 かつてインドネシアのジャングルに住んでいる一頭の鹿がいました。
- 30 彼は若いときは強くて素早かったですが、今、彼は年老いて疲れていました。
- 31 日中のほとんどと、夜はずっとジャングルの中の木々の下で眠りました。
- 32 普通はその鹿はよく眠りました。
- 33 しかし、ある夜、彼は突然起きました。
- 33 彼は一人ではありませんでした。
- 34 一匹のジャッカルが彼の隣に横たわっていました。
- 35 「こんにちは」ジャッカルは空腹な微笑みとともに言いました。
- 36 「そして、さようなら。私はおまえを食べます。」
- 37 「ああ、だめだ。」鹿は思いました。
- 38 「どうしたら私は逃げるができるだろう。私は年老いて疲れている。私は走って逃げることはできない。私は注意深く考えなければならない。」
- 39 「さて」とジャッカルは言いました。
- 40 「何か言えよ。恐ろしいんだろ。」
- 41 「ああ、そうです。私は怖いです。」鹿は言いました。
- 42 「しかし、私が言えることはなにもありません。
- 43 あなたは最も素早く、最も強く、そして、最も危険な私が知っている動物です。
- 44 もちろん、あなたは私を食べるでしょう。
- 45 「最も素早く、最も強く、そして、最も危険な」とジャッカルはたずねました。
- 46 彼はとても誇り高かったのです、それで鹿が彼をほめると気持ちよく感じました。
- 47 「ああ、そうです。」鹿は言いました。
- 48 「もちろん、人間を除いて。」
- 49 「なに。」ジャッカルは叫びました。
- 50 今や、彼は幸せではありません。
- 51 「俺より強い動物だって。ありえない。この『人間』はどんな種類の動物なんだ。」
- 52 「彼はジャングルの端に住んでいます。」鹿は説明しました。
- 53 彼は体に毛が無く、脚が2本しかない変な動物です。

- 54 ジャッカルは笑いました。  
55 「二本足。無毛。彼は何でそんなに変なんだ。」  
56 「ええと」鹿は答えました。  
57 「彼は知恵があります。かれは物をつくることができます。  
帽子や靴や...ええと...鉄砲とか。」  
58 「帽子、靴、それに鉄砲って何だ。それらはおもちゃみたいなものか。」ジャッカルは不思議がりました。  
59 彼は本当に知らなかったのです。  
60 しかし、彼は言いました。  
61 「俺は帽子、靴、それに鉄砲も怖くない。おれはこの『人間』に会いたいぜ。彼が偉大なわけが無い。彼を殺して食ってやるぜ。」  
62 今、鹿は年老いて疲れていました、しかし、彼も知恵を持っていました。  
63 これが彼が探していたチャンスでした。  
64 「いいでしょう、ジャッカルさん。私と一緒に来なさい、そうすればあなたに見せてあげます。ジャングルの端には多くの人間がいます。あなたは彼らを食えることができます、そしてそれから私を食べなさい。」  
65 2匹の動物はジャングルの端に向って歩きました。  
66 今や朝でした。  
67 ジャングルのそばの道には一人の男のひとが朝の散歩をしていました。  
68 彼はとても年をとって杖が無ければ歩くことができませんでした。  
69 「あれが人間か。」ジャッカルは笑いました。  
70 「俺はすぐに彼を殺してやる。」  
71 「違う、違う。」鹿が言いました。  
72 「それは人間に似ています、でも見なさい。彼は3本足があります、2本ではありません。」  
73 その老人は歩き去りました。  
74 次に小さな帽子をかぶった若い少年が来ました。  
75 「これが人間か。」ジャッカルは笑いました。  
76 「おれが彼を今食ってやる。」  
77 「ええ、でも違います。」鹿が言いました。

- 78 「あれは人間の赤ちゃんです。彼はちょうど卵から出てきたところですよ。彼の頭の卵の殻のかけらを見なさい。」
- 79 若い男は歩き去りました。
- 80 さあ、道を次にやってきた人は男の人でした。そしてこの男の人は鉄砲を持っていました。
- 81 「ああ」鹿は考えました。
- 82 「これが私が待っていた男だ。」
- 83 「これが人間です。」彼は叫びました。
- 84 「早く。彼を殺して彼を食べなさい。それからあなたは私を食べることができます。」
- 85 ジャッカルは道に飛び込んでいきました、そしてその男に襲いかかりました。バン！
- 86 その男は素早かった。彼はジャッカルを撃ち殺しました。
- 87 その賢い年老いた鹿がジャッカルが死んだことを見たとき、彼は歩いてジャングルの中に戻っていきました。
- 88 「哀れな誇り高いジャッカルさん。」彼は言いました。
- 89 「彼は私よりも強かった、しかし私は知恵がある、人間のようですよ。そして私はそれを使うことができます。」
- 90 まあ、すみません。
- 91 私は私の小さい少女を見つけることができません。
- 92 彼女は食料品売り場では私と一緒にいた、しかし彼女は消えてしまいました。
- 93 心配しないでください、奥様。
- 94 私たちが彼女を見つけます。
- 95 それでは、彼女はどのような格好ですか。
- 96 彼女はかわいい小さな少女で金髪です。
- 97 彼女は赤い服をきていてリボンをして黒い靴を履いて.....
- 98 お聞きください。
- 99 ジェニーという名前の小さい女の子が迷子です。
- 100 彼女は眼鏡をしています。
- 101 彼女は赤い服を着て黒い靴を履いています。
- 102 ああ、あれが私の娘です。ありがとうございます。